

有限会社 辻谷工業



オリンピック選手が愛用
する世界一の「飛ぶ砲丸」

埼玉県
富士見市水谷東2-57-1

1959年(昭和34年)設立
Tel 048-472-9524

代表取締役
辻谷 政久

<http://www16.plala.or.jp/tsujitanihougan/>

ソウル五輪から公式採用された同社の砲丸は、多くの選手から愛用され、アトランタ五輪から3大会連続で、金・銀・銅メダルを独占。「飛ぶ砲丸」の秘密である「正確な重心」は、同社の繊細な手作業でしか成し得ない。

多くのオリンピック選手に愛用され、金・銀・銅メダルを独占。

オリンピックの砲丸競技は、世界各国から複数採用された砲丸を選手が自由に選んで使える規則になっている。同社の砲丸はソウル五輪で採用されて以来、数ある砲丸の中から、多くの選手に愛用され、アトランタ五輪以後、3大会連続でメダルを独占。今や、同社の砲丸を選ぶことが金メダルへの近道とも言われている。



オリンピックでメダルを独占した砲丸

「飛ぶ砲丸」の秘密は、正確な重心にあり

鋳物工場で鋳造された金属自体に、密度の差があるため、表面を削り、正確な重心を出すことが「飛ぶ砲丸」作りのポイントとなる。その作業は、ひとつひとつすべて手作業で行われ、削っているときの音、手に伝わる圧力、削り終えたときのツヤなどを総合的に判断し、正確な重心を探し出す。まさに経験に裏付けられた匠の技だ。少しでも重心がズレた砲丸は、飛距離に1~2mも差が出ると言われている。

握りやすい「飛ぶ砲丸」がオリンピック会場から消えた

同社の砲丸は、重心が正確だけでなく、指紋にヒントを得た「微細な溝」が施されていた。非常に握りやすく、今までにない画期的な砲丸だったので、バルセロナオリンピックに出品した練習用砲丸が、すべて盗難に遭うという事態が起きた。同大会後、この溝を施すことは禁止されたが、同社の高い技術力と創意工夫は世界で高く評価され、その後の大会でも、同社の砲丸がメダルを独占することとなった。



表面の切削に用いられる旋盤



14もの工程を経て、砲丸が完成



この匠の手がメダルを保証